

ECBはインフレ抑制に向け、利上げ加速

ポイント① 0.75%の大幅利上げを決定

ECB（欧州中央銀行）は8日の理事会で、主要政策金利を0.75%引き上げることを全会一致で決定しました。ラガルド総裁は会見で「インフレ率は極めて高い水準であり、長期間にわたって目標を上回って推移する可能性が高い」とし、今後数回の会合での追加利上げに言及し、ECBの2%のインフレ目標達成に向けて強い意志を示しました。

ポイント② 高インフレが定着することへの警戒

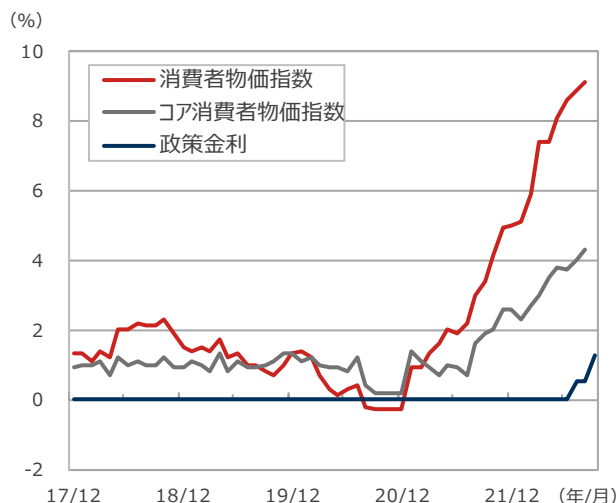
利上げ加速の背景には、インフレ高進の要因がエネルギー価格上昇に留まらず、他の分野にも広がってきており、こうした状況により人々の心理に高インフレが定着することへの警戒があります。8月のユーロ圏消費者物価指数（速報値）は前年同月比で+9.1%となり、統計で遡れる1997年1月以降の過去最高を更新しました。エネルギー価格が同+38.3%とけん引しましたが、財価格も同+5.0%、サービス価格も同+3.8%とじりじり上昇しています。

また、ECBが8日に公表した「経済・物価見通し」では、ユーロ圏のインフレ率は23年は+5.5%と前回6月時点の見通しから上方修正されました。24年は+2.3%まで鈍化するものの、ECBの2%のインフレ目標を上回る見通しとなりました。

ポイント③ ユーロ安もリスク、苦悩が続くECB

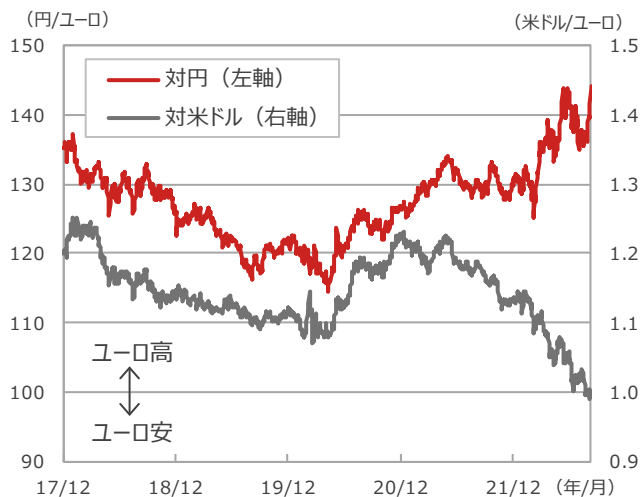
欧州ではロシアからの天然ガス供給不安などにより光熱費が急騰しており、元々景気が厳しい状態にあります。そのような中での利上げ加速であるため、米国などより景気への影響が大きくなると見られており、ユーロが対米ドルで下落しています。今後の金融政策の運営においては、ECBの苦悩が続くと見られます。

ユーロ圏の消費者物価指数と政策金利



期間：（消費者物価指数）2017年12月～2022年8月、月次
（政策金利）2017年12月末～2022年9月8日、月次
消費者物価指数は前年同月比、コアはエネルギー、食品、酒、たばこを除く
政策金利は主要リファイナンスレート
（出所）Bloombergより野村アセットマネジメント作成

ユーロの対円、対米ドル為替レート



期間：2017年12月29日～2022年9月8日、日次
（出所）Bloombergより野村アセットマネジメント作成

重要
イベント

9月23日 ユーロ圏PMI（購買担当者景気指数）（9月）

9月30日 ユーロ圏消費者物価指数（9月）